

すみた 議会だより



No.175

令和3年
10月15日



神田町政2期目スタート ②

年内に解体開始（応急仮設住宅中上団地） ④

財政運営に創意工夫（決算審査特別委員会） ⑥

常任委員会「所管事務調査」報告 ⑩

町の考えを問う
町政運営・新型コロナで論戦 ⑫

議会人事新構成 ⑳

追跡レポート 発信拠点オープン ㉒

すみた想い人 ㉓

「上手に踊れるよ♪」

《世田米保育園》 関連記事24p

第14回臨時会
第15回臨時会
第16回定例会

神田町政

町政運営方針

『医・食・住』の充実や産業振興

2期目スタート



△ 将来の子どもたちにつなぐまちづくりを目指す神田町政2期目。

第14回臨時会は、8月10日に開かれ、町長選挙で再選し2期目に入った神田謙一町長が所信表明しました。同日提出された住民交流拠点施設・まち家世田米駅にある土蔵群の耐震診断や改修設計を盛り込んだ一般会計補正予算案は、賛成少数で否決されました。

第15回臨時会は、8月20日に開かれ、新型コロナウイルスのワクチン接種に係る備品購入費などを盛り込んだ一般会計補正予算案は原案のとおり可決。

第16回定例会（9月議会）は、9月7日から17日までの11日間の会期で開かれました。**一般質問**には、7人の議員が登壇。2期目に入った神田町長の町政運営方針、新型コロナウイルスへの対応などについて論戦が交わされました。また、人事案件、町条例の一部改正、補正予算などを審議し、原案のとおり可決。

令和2年度一般会計及び3特別会計の歳入歳出決算並びに2事業会計決算については、決算審査特別委員会を設置し、集中審査しました。（関連記事6～9ページ）

神田謙一町長が再選



△ 2期目の主要施策を述べる神田町長。

町長所信表明演述（要約）

次世代へつなぐ町に

町長選挙では、町民の皆さまの変わらぬご支援と議員の皆さまのご支援をいただき、2期目の町政を担うことになりました。その責務の重大さに、引き続き身を引き締め、

初心に立ち返って町政執行にあたってまいります。2期目の町政運営については、2年目を迎えた町総合計画に基づいて各種施策を推進し、「医・食・住」の充実と地域産業の再生及び振興、若者の定住促進、子育て環境充実、新型コロナウイルスへの対策などに取り組みます。

町民の命、健康、幸せ

を守るため、ベクトル（物事や考え方の向いている方向）を同一方向に、オール住田で、みんなで支え合いながら住田を盛り上げていきます。

次世代にツケを残すことなくつないでいく責務があります。将来の子どもたち、次世代のためにこの町をつくってまいります。

主な町政運営方針

- ◇ 新型コロナウイルス感染症対策
- ◇ 健康まちづくりの推進
- ◇ 住田の食産業の推進
- ◇ 住まい環境の改善
- ◇ ひと…人口対策
- ◇ まち…生活環境対策
- ◇ しごと…所得対策

一般会計補正予算を否決 『まち家』の土蔵巡り



△ 「住民交流拠点施設・まち家世田米駅」敷地内の土蔵群。

令和3年度一般会計補正予算案は、歳出のうち、「住民交流拠点施設・まち家世田米駅」の土蔵群修繕にかかる耐震診断等状態確認、その後の活用方法検討に向けた「公開活用調査設計業務委託料」(734万8千円)を盛り込んだ予算案を審議。議長を除く11人で採決の結果、賛成5、反対6で否決されました。

問 図書室や子育て支援の施設など、町民が望む施設はたくさんある。活用用途が明確ではない中で修繕しようとしている土蔵が、町民が利用しているのに望ましい施設か。

答 国登録有形文化財の指定を受け、補助金も見込まれる。全体的に必要な整備の内容、耐震補強を明らかにし、使い方については調査結果を踏まえて進めていきたい。

問 委託料は734万円も必要か。算定基準は。

答 委託料は、国交省の委託積算基準にもとづいたものである。

反対討論

佐々木春一議員

蔵の補修に関わる予算については、住民や議員に説明し、中心地域の蔵の活用と合わせた総合的な計画を示したうえで再度出直してもらわなければならない。

補正予算 新型コロナワクチン 接種関連費用など 可決

令和3年度一般会計補正予算案は、歳入歳出にそれぞれ520万円を追加し、補正後の総額を5億227万6000円とするもの。

問 全国的に感染者数が増えている。町民のワクチン接種の予定は。

答 町民の皆さんの理解や協力をいただいて効率よく接種を進めることができている。社会体育館での集団接種

は、9月中をめどに完了する予定。その後は県立大船渡病院附属住田地域診療センターでの対応を予定している。接種のあとも引き続き基本的な感染対策は徹底してもらいたい。

町内のワクチン接種 9月中で終了見込

10月1日に開かれた第17回臨時会の行政報告で、町内の新型コロナワクチン接種状況が報告されました。

問 町民のワクチン接種は。

答 町民のワクチン2回接種完了が9月30日現在、全体で約91.7%に達しており、おおむね接種のめどが立った。

9月30日まで県立大船渡病院附属住田地域診療センターを会場に接種を進める。10月以降の接種会場について調整している。

接種率91.7%

問 本町の接種対象者と接種率は。

答 接種対象者は、65歳以上が2387人。12〜64歳が2438人。計4825人。

9月30日現在の接種状況は、2回接種済みは、65歳以上が2260人。接種率94.8%。12〜64歳が2163人。接種率88.7%。全体では4423人で91.7%。



△ 社会体育館でのワクチン集団接種は9月中で完了した。

応急仮設住宅
中上団地
年内に解体開始

解体等工事関連費2008万円計上

問 応急仮設住宅中上団地は、東日本大震災の発生を受けて下有住地区の旧下有住小学校校庭に63戸が建設されたが、解体撤去されるのは。

答 仮設住宅のうち、退去した入居者や他自治体などへ払い下げ・移設された15棟を除いた48棟を対象として一般への払い下げを実施

し、37棟の行き先が決定した。老朽化のため払い下げ対象外となった11棟が解体される。

問 旧下有住小学校校舎一部の解体は。

答 校舎の解体は地域住民とも協議を行って同意を得て、今後の土地利用を見据えて取り壊す。解体自体は早ければ年内にも開始となる。

9月議会で可決された議案は、町税条例の一部を改正する条例、県収入証紙基金条例の一部を改正する条例、町国民健康保険条例の一部を改正する条例、一般会計補正予算並びに国民健康保険、介護保険、後期高齢者医療の各特別会計補正予算及び簡易水道、下水道事業の両会計補正予算、町過疎地域持続的発展計画策定。

一般会計補正予算は歳入歳出ともに7588万円を追加し、補正後の総額を5億7816万円とする。



△ 仮設住宅記念行事も計画され、払い下げ撤去が進む仮設中上団地。

ECサイト
農産物の顧客獲得

ECサイト販売事業者
支援事業委託料 **550万円**

問 ECサイトの取扱いは。

答 JA全農が運営する産地直送通販サイト「JAタウン」内のJAおおふなと専用ページ内で住田町の農畜産物を販売する。新型コロナウイルスの影響で巣ごもり需要が高まる中、都市部からも顧客獲得を図っていく。



△ 都市部への販路拡大が期待される農産物。

新特措法に対応
持続的発展を目指し

町過疎地域持続的発展計画策定

過疎地域自立促進特別法が令和3年3月末に期限を迎えたことに伴い、令和3年4月に新たに過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法が制定されたことから、令和3年度から令和7年度までの「過疎地域持続的発展計画」を策定するものである。

今回の計画は、令和2年度に策定した住田町総合計画に包括された内容とし、本町を取り巻く課

題に的確に対応していくとするものである。依然として人口減少と高齢化に歯止めがかからない状況から、持続的発展が可能なまちづくりを目指し、①移住・定住施策の推進、②基幹産業である農林業の振興、③地域医療体制の維持確保、④各産業の担い手確保を掲げ、地域に根差し、地域資源を生かした産業の推進、起業支援など雇用創出に取り組む。

請願のゆくえ

コロナで悪化する地方財政 国に意見書提出

新型コロナウイルス感染症の拡大は、経済的・社会的影響を及ぼし、国民生活への不安が続く、地方財政の財源不足が避けられない厳しい状況にある。地方税財源の充実が不可欠であることから、国において、令和4年度地方財政対策及び地方税制改正に向け、一般財源を確保・充実させるよう強く要望する。

人事案件に同意

9月30日で任期満了となる菊池宏教育長の後任として松高正俊氏の任命が提案され、同意しました。



〔教育長〕

まつ たか まさ とし
松高正俊氏

世田米字小口洞（新任）

任期は、10月1日から3年間

採択 米価下落に緊急対策を

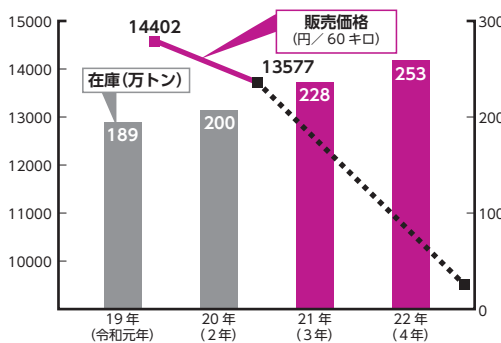
請願 第2号	件名	新型コロナ禍による米価下落に対し政府による緊急対策を求める請願
	請願者の住所・氏名	盛岡市本宮字小林46-1 農民運動岩手県連合会 会長 久保田 彰孝
	紹介議員	佐々木 春一
	付託常任委員会	産業経済常任委員会
	審査の結果	採択すべきものと決定
本会議での採決	賛成全員 国へ意見書提出	

【発委第1号】新型コロナ禍による米価下落に対し政府による緊急対策を求める意見書

新型コロナウイルスの感染拡大により、外食需要が減少し米の大幅な過剰が生じ、米価が下落していることから農業者と地域経済を守るため、国の緊急対策を求める。意見書の主な内容は次のとおり。

- ①新型コロナウイルス感染拡大の影響による過剰在庫を政府が緊急買入れし、米の需給環境を改善すること。
- ②政府が買入れた米をコロナ禍などによる生活困難者への食料支援や海外援助などで活用すること。
- ③外国産（ミニマムアクセス米）の輸入について、当面、国産米の需給状況に応じて数量調整を行うこと。

米価は3年連続で暴落の危険（全中試算）



△新米が集荷されるが米価下落は避けられない。

採択 アルプス処理水の海洋放出方針撤回を

請願 第3号	件名	東京電力福島第一原子力発電所におけるALPS処理水の海洋放出方針を撤回し、安全な処理方法の確立を求める請願
	請願者の住所・氏名	宮古市上村1-9-22 豊かな三陸の海を守る会 共同代表 横田 有平 滝沢市土沢220-3 消費者団体連絡協議会 会長 川村 元
	紹介議員	佐々木 春一
	付託常任委員会	産業経済常任委員会
	審査の結果	採択すべきものと決定
本会議での採決	賛成多数 国へ意見書提出	

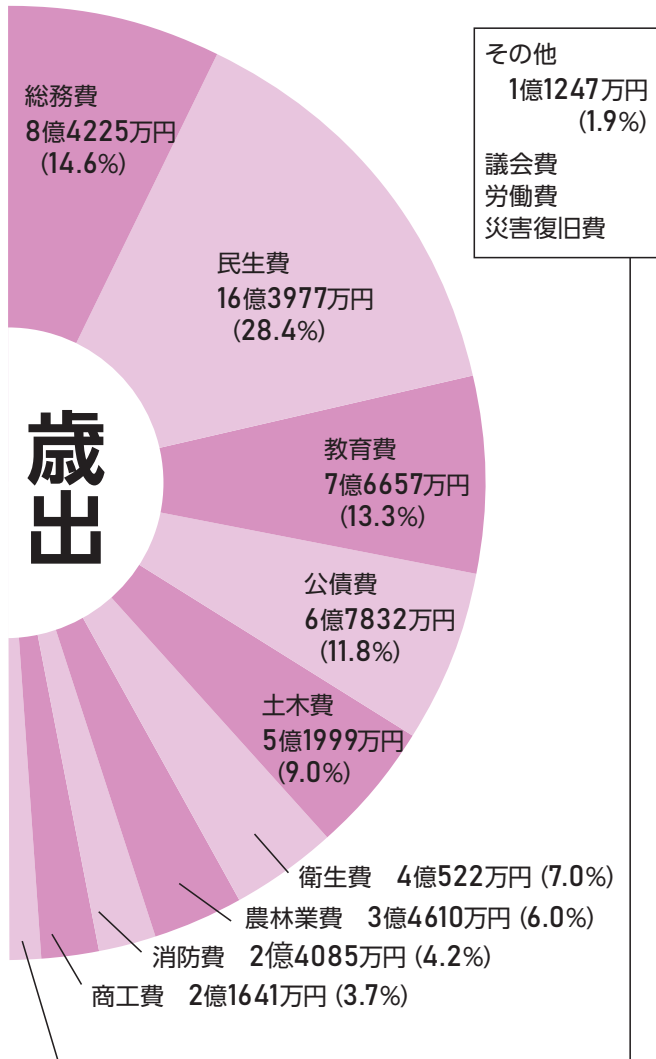
【発委第2号】東京電力福島第一原子力発電所におけるALPS処理水の海洋放出方針決定を撤回し、安全な処理方法の確立を求める意見書

政府は関係者の同意なくしていかなる処分も行わないとしておきながら、本年4月13日に海洋放出を決定したが、全国漁業協同組合連合会や岩手県漁業協同組合連合会は抗議と反対の声明を発表している。本県漁業にもダメージを与えたとともに国民の食と生命への安全も懸念されることから、安全な処理・保管方法を確立するよう求める。

- ①科学的に安全性が確立されていない段階での海洋放出は絶対行わないこと。
- ②トリチウム除去については研究途上にあることから、早期に確立するよう鋭意努力すること。

令和2年度の一般会計と特別会計、公営企業会計を合わせた決算額は歳入82億3822万円、歳出79億2431万円となりました。

一般会計歳出 57億6795万円



町民一人あたりの一般会計歳出額

(令和3年3月末日時点 人口5,179人)

111万3719円

主な執行业務

特別定額給付金 5億3193万円
新型コロナ緊急経済対策として、家計を支援。

地域おこし協力隊 (ストロベリープロジェクト) 113万円
大規模いちご農家の後継者育成に着手。



避難所備品購入費 1204万円
災害に備え防災倉庫と各種備蓄品を整備。



GIGAスクールサポート業務 110万円
教育現場のICT化対応のため、利活用環境を整備。

決算審査特別委員会

令和2年度 一般会計・特別会計・公営企業会計決算の状況

区分		歳入	歳出	採決の結果
一般会計		59億3048万円	57億6795万円	賛成多数
特別会計	国民健康保険	6億9110万円	6億1900万円	賛成全員
	介護保険 (保険・介護サービス)	10億3291万円	10億1297万円	賛成全員
	後期高齢者医療	7685万円	7631万円	賛成全員
企業会計	簡易水道事業	2億8382万円	2億5914万円	賛成全員
	下水道事業	2億2306万円	1億8894万円	賛成全員
合計		82億3822万円	79億2431万円	

コロナ禍

財政運営に創意工夫

監査委員の意見

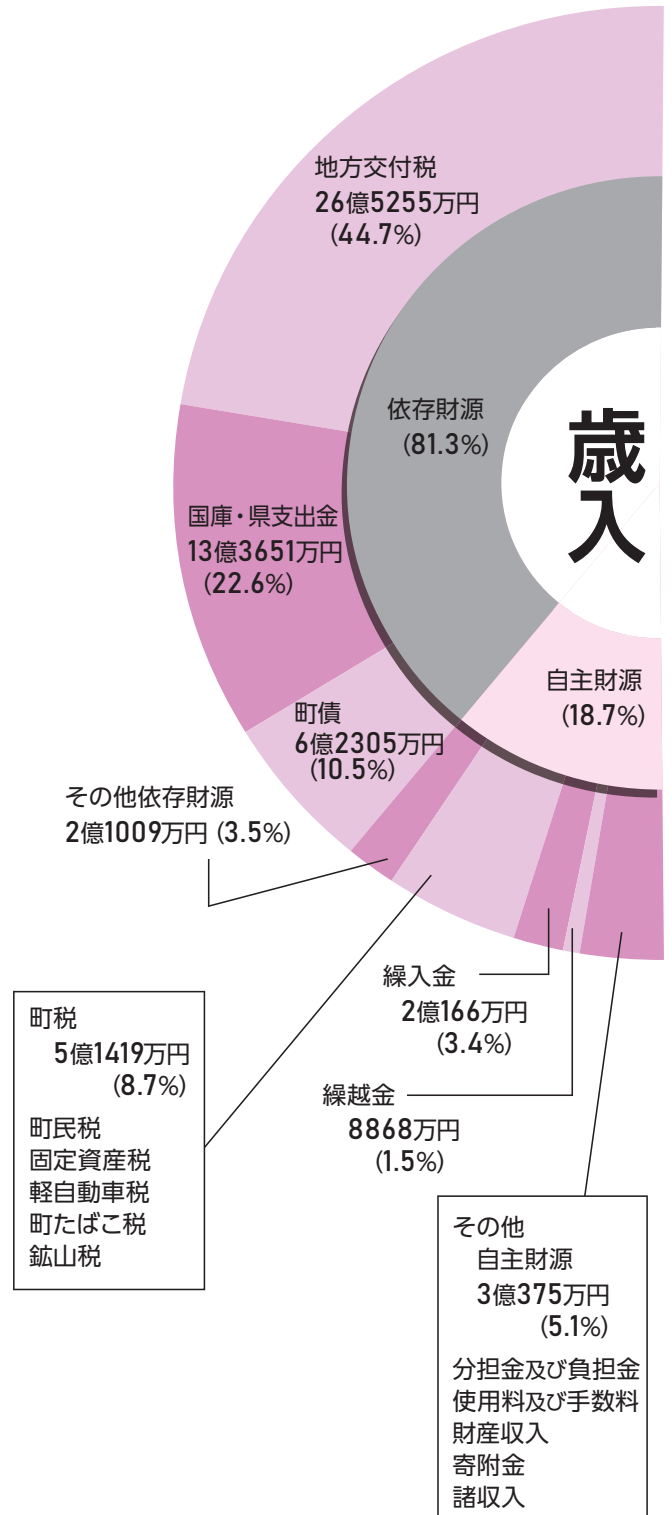
代表監査委員 紺野 仁
監査委員 佐々木 初雄

債権管理・内部統制を適正に

● 改善・検討を要する事項 ●

- (1) 収入未済額の縮減について
 - ・徴収担当課を中心に、各課連携により全庁的な取り組みを行うこと。
- (2) 債権管理体制の徹底について
 - ・債務者の所在不明や死亡などにより10年以上経過した債権もある。適切な債権管理を図ること。
- (3) 内部統制システムの構築について
 - ・事務処理における事故等を防止するため、業務内容やそのプロセスを「見える化」するよう努めること。
- (4) 予算の適正な執行と健全な財政運営について
 - ・地方交付税などの依存財源割合が高い。適切な財政計画に沿った財政運営に努めること。
- (5) 時間外勤務について
 - ・長時間労働による職員の健康障害リスクの増加が懸念される。職場全体で取り組むべき課題と捉え意識改革に努めること。
- (6) 簡易水道事業について
 - ・給水原価が供給単価を上回り、給水に要する費用を料金収入で賄えない状況にある。さらなる経営の健全化に取り組み、災害発生に備えた危機管理に努めること。
- (7) 下水道事業について
 - ・人口減少や節水型家電の普及などによる水需要の減少で、下水道使用料収益の伸びは期待できない状況にある。さらなる経営努力によって効果的・効率的な高品質の町民サービスが提供されるよう努めること。

一般会計歳入 59億3048万円



認定

決算審査特別委員会（委員長・佐々木春一議員）は、9月13日から15日までの3日間にわたって開かれ、一般会計決算及び3特別会計決算並びに2事業会計決算を審議。すべて原案のとおり認定、可決しました。

ここでは審議した多くの質問項目の中から、各委員1項目を掲載してお知らせします。

決算審査特別委員会

決算を

新型コロナ・経済対策

徹底チェック

関係人口創出



水野正勝委員

Q 関係人口創出事業の評価は。

A 東京や名古屋方面の方々に向けたイベントやモニターツアーの開催で、徐々につながりが広がり、住田を訪れる人が増えたと評価している。現在コロナ禍の移動制限に対し、オンラインを活用してつながりを継続している。

交通安全対策



荻原 勝委員

Q 交通安全関係団体のそれぞれの課題は。

A 交通安全協会の分会は、加入者が非常に少なくなっている。母の会は、働きながらの活動が多く、取り組みの方法について相談している状況である。今後の活動は、それぞれの団体で協議し検討していると捉えている。

事業協力金



佐々木信一委員

Q プラスアップ事業協力金の実績は。

A 新型コロナの影響を受け、かつ感染予防対策を実施した町内の小売業者110事業者、農業者10経営体に協力金を交付した。地域経済への下支えができたかと捉えている。

消防通信指令



佐々木春一委員

Q 消防通信設備の更新について県内統一の動きがあるが、大船渡地区消防組合の対応をどう受け止めているか。

A 地区消防組合では、導入経費やランニングコストを比較すると単独で進めることが財政的に有利と判断している。本町の地理的条件に合った整備に心がける。

賛成討論

事業と雇用継続を評価

荻原 勝委員

新型コロナウィルス感染症への対応、神田町政が掲げる「医・食・住の充実」、昨年7月に破産を申請した三陸木材高次加工協同組合、協同組合さんりくランバーの2事業体に係る事業と雇用を維持継続されたことを評価する。

まちの課題は少子高齢化、人口減少への対応、医療体制充実、2事業体の債権整理など多岐にわたる。持続可能な、共に支え合う共生のまちづくり、町民一人一人の幸福実現のための令和4年度予算編成につながるよう期待して賛成討論とする。

共生のまちづくり推進

収入未済額の解消を

決算審査特別委員会



△ 新築された町営住宅清水沢団地。



△ ブランド化が望まれている町の花アツモリソウ。



▷ 各クラスに1台ずつ配備され、子どもたちの学習に活用される電子黒板。



▷ 公営企業会計に移行し、独立採算が求められる下水道事業。

町民税



村上 薫委員

Q 町民税の推移を見ると町税は減収し、固定資産税は増収している要因は何か。

A ここ数年の流れを見ると納税義務者、特に給与所得者が減少していることが町税の減収となっている。固定資産税は、過疎減免等の期限を迎え増収となった。

住高魅力化



阿部祐一委員

Q 中高一貫校の取り組みが地域創造学を生かした住田高校の魅力向上にどう取り組むか。

A 中高一貫校の取り組みは中山間地域を担う人材を育成する観点から極めて有意義であった。その知見を生かした地域創造学や魅力化推進事業をとおして、今後も住田高校の魅力向上を図る。

簡易水道・下水道



林崎幸正委員

Q 簡易水道と下水道事業が公営企業会計となったが、一般会計からの繰出金が計上されている。独立採算を目指すべきではないか。

A 会計の明瞭性と運営を明確にしていけるべきであるが、会計独自では成り立たない。現行ルールの中で制度運営をしていきたい。

アツモリソウ



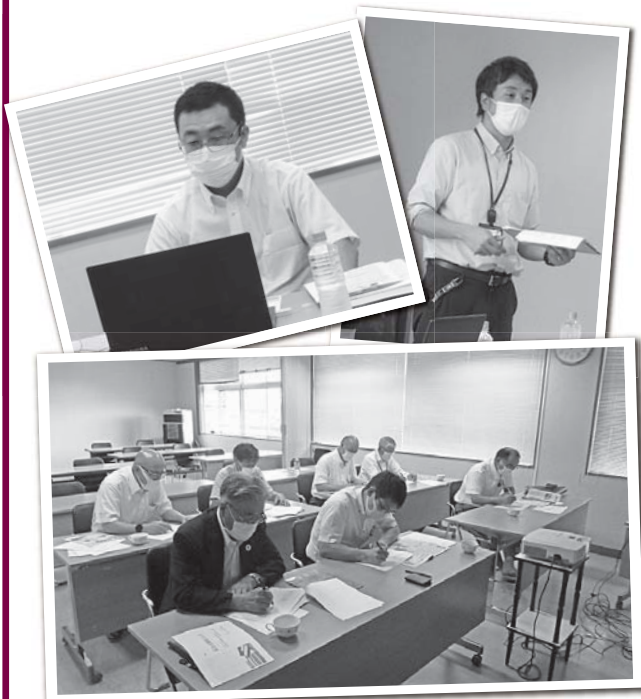
菅野浩正委員

Q ふるさと納税の返礼品でも人気のアツモリソウ。今後の付加価値化は。

A アツモリソウ増殖事業は、バイオ技術の面が確立されてきており、成果が出ている。アツモリソウの今後の付加価値化は、関係者による意見交換会の中で検討していきたい。

議案	水野正勝	荻原勝	佐々木初雄	佐々木信一	佐々木春一	村上薫	阿部祐一	林崎幸正	菊池孝	高橋靖	菅野浩正	瀧本正徳	議決結果
【第14回 住田町議会臨時会】													
議案第1号 令和3年度住田町一般会計補正予算(第2号)	○	○	×	×	×	○	×	×	×	○	○	-	否決
【第16回 住田町議会定例会】													
議案第13号 教育委員会の教育長の任命に関し同意を求めることについて	○	○	○	×	○	○	○	×	×	○	○	-	可決
認定第1号 令和2年度住田町一般会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	-	認定
請願第3号 東京電力福島第一原子力発電所におけるALPS処理水の海洋放出方針決定を撤回し、安全な処理方法の確立を求める請願	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	可決
発委第2号 東京電力福島第一原子力発電所におけるALPS処理水の海洋放出方針決定を撤回し、安全な処理方法の確立を求める意見書	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	可決
発委第3号 コロナ禍による厳しい財政状況に対処し地方財源の充実を求める意見書	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	-	可決

7月27日、8月3日の2回にわたって、東海新報社の千葉記者、清水記者を講師に迎え、記事づくりのノウハウを学びました。



広報編集常任委員会は、町民の皆さんに議会のことがもっと伝わるような「議会だより」をお届けしたいと思い、今までも発行日を早めるなど工夫をしてきました。さらに良いものをお届けするため、原点に立ち返って、記事編集の仕方をプロから学ぼうと、講師に東海新報社の

方招き、2日に渡って研修会を行いました。1日目は、読みやすい文章の書き方と議会広報の役割について学び、2日目は実践。ひとつの課題をそれぞれのやり方で記事にまとめ、今後の記事作成に生かすべく課題を全員で確認しました。

研修会 住民に伝わる 紙面づくりを目指して

◆広報編集常任委員会◆

委員長の
所感

住民目線で

「わかりやすく」「よみやすく」「住民目線で」読みたくなる紙面づくりをめざす「議会だより」として掲げ編集に取り組みました。

①編集技術向上のための町村議会広報コンクールに参加。②議会情報の速報性を重視した発行。③紙面づくり研修会の開催。

今後、さらに編集技術の向上や紙面内容の充実を図り、町民に親しまれ、議会や町政がわかる「すみた議会だより」の発行を目指します。

委員長 菅野 浩正
副委員長 佐々木春一
委員 佐々木信一
佐々木初雄
荻原 勝
水野 正勝

◇産業経済常任委員会◇

調査事項

農林業振興について

●ありす畜産の実践と意見交換会
(有)ありす畜産が目指す

本町の農林業は、人口減少・高齢化に伴い担い手不足が深刻化している。将来を見据え、魅力ある農林畜産物の付加価値を高める6次産業化の推進が重要と捉え、調査・研究した。

●けんプレカッタ事業
協同組合の工場研修
けんプレカッタが目指す
未来の木材産業やCLT、バイオマス発電、水素製

養豚経営と耕畜連携及び6次産業化の取り組みについての講演と認定農業者との意見交換会を開催。優れた担い手農業者の育成が重要である。

●林業従事者との意見交換会
新規林業就業者の確保や自伐型林家の育成など林業の担い手確保対策が重要。低コスト造林、施業の集約化、機械化による効率的な森林施業の推進など森林整備が必要である。

魅力化に6次産業化促進



●新型コロナウイルス感染症への事業者支援
飲食店や旅館業など厳しい状況である。町独自の支援策はスピード感を持って対応すべきである。

委員長の所感

所得向上を目指す

企業との連携、観光農園や農林業を通じた交流人口の拡大と所得向上を目指した取り組みを期待したい。

委員長 佐々木信一 / 副委員長 阿部祐一
委員 菊池 孝・林崎幸正・菅野浩正・水野正勝

◇総務教民常任委員会◇

調査事項

人口減少時代の自治体政策について

人口減少社会に立ち向かい、打開していくためには、きちんとした地域政策、町民の暮らしを充実させ地域の実情に応じた施策が必要である。自治体は住民生活の最前線の守り手として迅速な予算措置と対策を進めるべきと捉え、調査・研究を実施した。

●町財政と今後の財政運営について
町の財政力指数は0.19で健全な水準を維持している。持続可能な財政運営のため、財政調整基金の運用や財源確保に努め、事業効果を検証し自主的行政財政改革を図ること。

●新型コロナ禍における自治体の対応について
新型コロナによる影響や被害の実態を明らかにし、町が保有する施設ごとの劣化状況や維持・改築コストを見える化し、施設の長寿命化を見据えた改修、中長期的に財政負担の軽減と平準化を図ること。

迅速な予算措置と対策を



し、町民へのケア・補償と生活・経営の維持・再建を行うこと。

委員長の所感

しっかりと向き合い

住民にとってもっとも身近な自治体行政。人口減少が町民の暮らしにもたらす影響にしっかりと向き合いたいものです。

委員長 佐々木春一 / 副委員長 高橋 靖
委員 村上 薫・佐々木初雄・荻原 勝

一般質問

町の考えを問う

神田町政・新型コロナ・産業振興などで論戦

7人の議員が質問

ページ	質問者 (登壇順)	質問項目
13	はやしざき さちまさ 林崎 幸正	① 2期目の神田町政について
14	おぎわら まさる 萩原 勝	① 道路整備について ② 住宅政策について ③ 総合計画の進捗と検証について
15	ささきしんいち 佐々木信一	① 昭和橋の架け替え工事について ② 高収益作物の取り組みについて
16	ささきはるかず 佐々木春一	① 新型コロナ禍における本町の医療と介護について ② 水田農業と米価下落への対策について ③ 気仙川水系流域治水プロジェクトについて
17	みずの まさかつ 水野 正勝	① 新型コロナウイルス感染症対策について ② 住民交流拠点施設「まち家世田米駅」について
18	むらかみ かおる 村上 薫	① 神田町政2期目のマニフェスト(公約)と所信表明演述について ② 行政業務のデジタル変革(DX)推進について ③ 令和2年度決算から見る課題について
19	あべ ゆういち 阿部 祐一	① 産業振興について ② 広域連携の進め方について

なお、全文記録(議事録)は、11月中旬から役場庁舎2階の総務課と町のホームページ上で閲覧できます。

一般質問は、議員が町の行財政全般にわたり、施行状況や将来に対する方針を聞き、疑問点をたずねること。質問の方法は、1回目は一括して質問しますが、2回目以降は一周ずつ質問する一周一答方式を採用しています。持ち時間は、答弁を含めて60分です。

問 最も実現したい政策は

答 医・食・住の充実が不可欠

問 2期目の神田町政、最も実現したい政策は何か。

答 町長

まずは新型コロナウイルス感染症対策を行い、少しでも感染症の心配が少なくなる社会の実現が急務であると捉えています。そして、私自身の町づくりのテーマである「豊かな自然の中で安らぎと賑わいが共生する町づくり」のため、医・食・

住の充実と地域産業の再生及び振興、若者の定住促進、子育て環境充実に取り組む。

問 政策を実現するために、どのように取り組む考えか。

答 町長

町民の命と健康、幸せを守るため、ベクトルを同一方向に、オール住田で進め、みんなで支え合いながら住田を盛り上げ

ていく。また、厳しい財政状況下でも、次世代にツケを残すことなく、この町を作っていく責務がある。柱となる医・食・住をそれぞれ充実していくためには、総合計画をマスタープランとした各種施策、事業を実施していくことが大切である。コロナ禍という環境下ではあるが、各種施策を計画的に実施し、共生のま

ちづくりを進めながら、



はやしざき 林崎
さちまさ 幸正 議員

自主財源づくりの事業を進めるべきだと思う。

議員のつぶやき

町の考えを問う

問 どう作る「共生の町」

答 オール住田で進める

問 神田町政が掲げる目標の達成のための組織作りには、人材の育成、確保が必要と考えるがどうか。

答 町長

組織作りは、まず人づ

健康まちづくりの推進、食産業の推進、住まい環境の改善という、医・食・住の3本の柱がそれぞれ推進されることとお互いが共鳴し、より効果を高めていくものと考えている。

問 自主財源確保のため、豊富な水資源を活用する考えはないか。

答 町長

森林・林業日本一の町づくりは、木材のみならず、豊富な自然環境が生み出す資源の活用にある。水に繋がる部分を含め、考えていく。



△ 「共生のまちづくり」2期目の神田町政。

問 総合計画などの見直しは

答 広く意見聴取で推進



おぎわら 荻原 まる 勝 議員

町の考えを問う

コロナ禍が収束した後のことも考えておくべき。様々な分野で競争が激しくなるかも。

議員のつぶやき

問 令和2年度の総合計画では、住民アンケート調査結果がどう反映され、推進委員会はどう取り組んだのか。令和3年度以降の進捗管理や事業評価はどうか。

答 町長 コロナ禍において総合計画に基づき取り組んだが、感染症が懸念される中で生活様式の変化、事業やイベント、会議などの中止や延期、規模の縮小など多くの制限や対策を余儀なくされた。初年度の事業評価は次年度で行うため令和2年度の住民アンケートは実施していない。同様の理由により、推進委員会も開催していない。令和3年度

は、コロナ禍という状況にあるが、住民アンケートの実施や推進委員会の開催については、時期や実施方法など状況に応じて判断し進めていきたい。

問 コロナ禍収束後に向けて、総合計画などの見直しを図る考えはないか。

答 町長 町民からの意見聴取、事業実績等の検証、PDCAサイクルに取り組みながら現計画を推進していきたい。

※PDCAサイクル
Plan (計画) → Do (実行) →
Check (評価) → Action (改善)
を繰り返すことによって、
業務を継続的に改善していく
手法。



△ より効果的な管理が求められている町営住宅など。

問 相談窓口の一本化を

答 情報提供を効率的に

問 各種住宅政策の担当部署が役場内で異なる。効果的に事業推進するためにも管理体制を見直すなど検討が必要ではないか。

答 町長 住民や入居希望者への情報提供、問い合わせ、各種手続きなどにおいて、より効率的な体制の検討を進めていきたい。

問 空き家対策に関する町と「邑(ゆう)サポート」の関係は。

答 町長 当町の空き家情報を町のホームページ上で紹介している。邑サポートには、問い合わせへの対応、所有者との賃貸や売買の取り次ぎなどの業務を委託している。

問 各種住宅政策の担当部署が役場内で異なる。効果的に事業推進するためにも管理体制を見直すなど検討が必要ではないか。

※邑サポート
町内の仮設住宅やよりあいカフェで継続的にサポートを
続けてきた団体。

問 昭和橋早期完成を

答 県への働きかけと協力で

問 昭和橋架け替え工事の進捗状況はどうか。

答 町長

令和5年度内の完成に向けて進められてきたが、事業推進において時間を要している部分もあり、現時点で工事の実施時期は未定である。今後も県への働きかけや協力をして、早期の完成を目指したい。

か。住民公募は行うのか。

答 町長

橋の名称は、完成時期に合わせて県と相談し進めていく予定だが、決定方法から決めていきたい。

問 昭和橋の解体に当たり、住民説明会を開催すべきと思うがどうか。

答 町長

住民の方々に工事内容、迂回路等の説明、周知が必要と考えている。

問 新しい橋の名称は、どのように考えているの

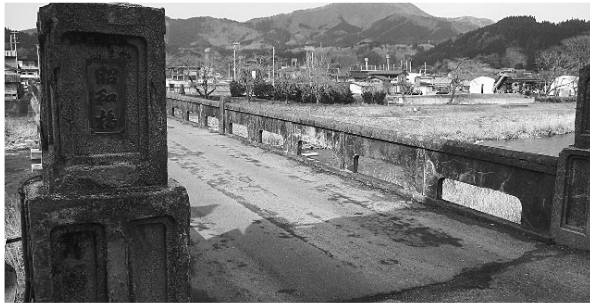


さ さ き しんいち
佐々木信一 議員

完成が待ちどおしい新しい昭和橋。周辺の景観と調和した譲り合いの橋です。新名称はみんなで考えましょう。

議員のつぶやき

▷ 町民に親しまれた昭和橋。まもなく解体される。



町の考えを問う

問 春まきタマネギに期待

答 栽培技術確立で高収益を



△ 安定した栽培で高収量・高収益が見込まれる春まきタマネギ。

問 収益性の高い春まきタマネギは、主要産地の端境期にあたる7月から8月の出荷により、高単価が見込まれ、生産者の所得向上が期待されることから導入の考えは。

答 町長

東北で春まきタマネギの栽培技術の確立が公表され、大船渡市農協では、技術確立を受けて、高収益が期待できる春まきに転換してきている。契約栽培なので安定した販売が可能であり、収量が多いほど収益が増える。共

同防除で生産費の圧縮にもつながり、転作物物推進助成もある。土地利用型作物であり、生産規模拡大、労働力確保、機械化、病害虫、鳥獣被害対策など多くの課題があるが、他の作物との労力分散を図り、高収益作物に取り組む営農類型を取り入れ、農家の所得向上につなげることで、担い手確保に期待ができる。多くの方々に高収益作物生産に取り組んでいただきたい。

問 医療体制の充実は

答 医師3名体制 継続要望



ささきはるか
佐々木春一 議員

町の考えを問う

問 新型コロナウイルス感染症への対応や必要な医療を全ての患者に提供できる医療体制が必要と考えるがどうか。

答 町長 大船渡病院附属住田地域診療センターの医師体制が3名から2名になっている。引き続き県に対して医師3名体制の確保など医療体制の充実を要望していく。

問 保育園や学校の教職員へのコロナワクチン接種状況はどうか。

答 教育長 保育園の職員には、優先的に接種を実施し完了している。小中学校の教職員並びに住田高校の生

徒と教職員には、町外居住者であっても希望者に町内での接種を受け入れ9月中旬に2回の接種が終了する見込み。

問 8月から特別養護老人ホームなど介護保険施設を利用する高齢者の食費負担が増えるとしているが。

答 町長 介護保険負担限度額認定要件が変更となり、町民税非課税世帯の方が介護施設を利用した際の1日あたり食費の軽減区分が4段階となった。第4段階では食費が650円から1360円になり、月額2万2010円の負担増となる。



△ コンバインによる刈り取り作業に精を出す米生産者。出来秋を迎えたが、米価下落で喜びも半減。

問 米の外食需要が大きく縮小し、在庫が増え米価下落の懸念が高まっているが対策は。

答 町長 飼料用米生産拡大を推進しながら、主食用米の供給過剰と米価下落に対応していきたい。

問 町独自の新型コロナウイルス対策農業持続化給付金の支給や来春の米栽培に向けた苗代や種もみ代への助成を実施しては。

答 農政課長 現段階では、米の買取価格も示されていないことから、価格提示があつた時点で農協や関係機関と検討のうえ対応したい。

問 気候変動による大雨や台風による激甚な水害が頻発している。気仙川の氾濫や洪水・土砂災害への防災対策は。

答 町長 堤防整備や河道掘削等の河川整備、治山や森林整備の森林関係対策、被害軽減のためのハザードマップ作成などハードとソフト対策を一体となつて進め、実際の行動に住民の理解が得られ、命を守る行動につなげたい。

ワクチン接種、多くの医療従事者の応援によって希望者への2回接種は9月中に終了できる見込み。ご苦労様でした。

議員のつぶやき

問 米価下落に支援を

答 飼料用米生産を推進

問 ささらなる経済対策を

答 動向を注視し適期に

問 7月に実施された町独自経済対策の反響は。今後の社会情勢によってさらなる経済対策も検討すべきと考えるが。

答 町長 昨年度後半に新型コロナウイルスの影響調査を実施したところ、「経営に影響がある」あるいは「今後影響が出る可能性がある」と7割の事業者で回答があった。それらを検証し対策が必要との判断から

「すみチケプラス」事業を展開。前回を上回る申し込みをいただいております、利用者にも事業者にも好評を得ているものと評価している。コロナ禍の影響は継続することが懸念される。引き続き町内事業所の経営状況を商工会などと情報共有し、適切な時期に効果的な経済対策を打ち出せるよう動向を注視していきたい。

問 新型コロナウイルスによる軽症者の重症化予防対策でパルスオキシメーターによる血中酸素飽和度の測定が活用されている。本町での今後の対応は。

答 町長 自宅療養者に対しては、県がパルスオキシメーターを貸し出すこととなっている。町としては、状況を見極めながら対応をしていきたいと考えている。



みずの水野 まさかつ正勝 議員

町の考えを問う

「病は氣から」
常日頃、負けない
強い心の持ちようも
大事な感染対策の
一つです。

議員のつぶやき

問 土蔵群活用の展望は

答 早期に状態調査が必要

問 住民交流拠点施設「まち家世田米駅」の事業評価と今後の展望は。

答 町長

現在は新型コロナウイルスの影響により休業や自粛が続いているが、これまで当初の目的どおり新たな交流人口を創出してきているものと評価している。今後中心地域活性化基本計画に基づき町民及び町外との住民交流の拠点文化・芸術の交流促進など、地域の活性化につながるような利用施策を進めていく。

問 世田米地区公民館としての利活用状況は。公民館としての避難所などの役割も果たしていくべきと思うがどうか。



△ 改修計画のため耐震診断調査が望まれるまち家世田米駅の土蔵群。

答 町長 高齢者教室をはじめ、多くの住民の方々に有効活用いただいている。避難所としては床面積が小さいため考えていない。

問 「まち家世田米駅」土蔵群の活用目的や事業効果をどう見込んでいたのか。今後の事業展望は。

答 町長

交流人口のさらなる拡大と歴史の伝承による賑わいの創出で中心地域が活性化すると期待している。土蔵群は老朽化で腐食が激しく倒壊の恐れもあるため、早期に状態や費用見込みを調査し、今後の活用計画を検討する必要がある。

問 新たな林業施策は何か

答 一貫作業システムの導入



むらかみ 村上 がおる 議員

町の考えを問う

SDGsの時代要請に合った「森林・林業日本一のまちづくり」が必要だ。

議員のつぶやき

問 住田町の8年後をどのように想定し施策を講じる考えか。

答 町長 本町の将来については10年後、20年後、それ以降についても常に憂うとともに希望をもって展望している。現在は負託を受けた4年間で総合計画の実施など、為すべきことを為し、その先の希望に満ちた未来、次世代へつないでいくことに集中する。

問 森林・林業日本一を目指す計画は、作成から16年になる。時代に合った新しい計画を策定すべきではないか。

答 林政課長 新しい林業振興計画をできるだけ早期に策定したい。

問 新たに考えている施策は何か。
答 町長 地拵えと植栽までを一貫して行う作業システムの導入、町有林の立木の販売などを検討している。航空レーザ測量の成果を分収造林や私有林などでも活用できないか検討していく。

※航空レーザ測量
航空機から照射するレーザにより、地上の高さや形状を3次元で計測する測量のこと。この計測を基に整備した微地形図、路網、樹高、樹種などのデータは、広大な森林の状態の把握・効率的な維持管理に活用できる。

問 滞納繰越の縮減を

答 債権管理条例の制定に着手

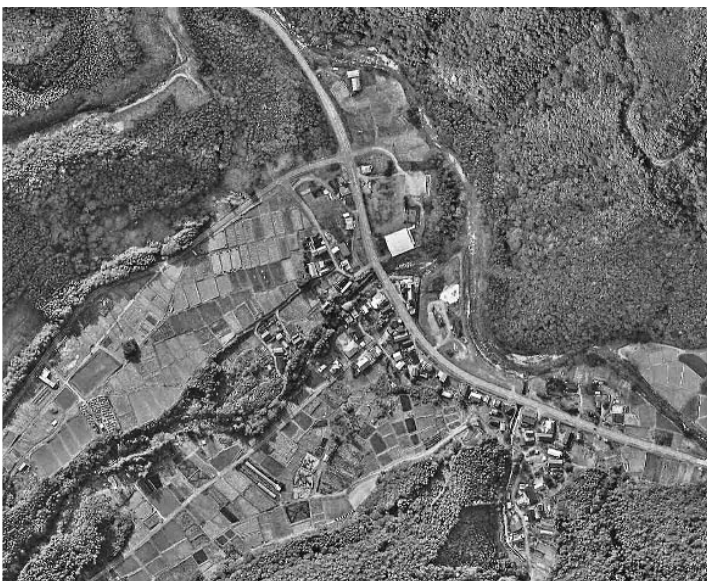
問 町行財政運営の課題で、監査委員からも指摘された町税などの滞納繰越分の債権管理体制をどのように図る考えか。

答 町長 長期間未納となっている債権について管理する必要がある。今後発生した債権に対し、迅速、効率的に対処することが重要。現在、債権管理条例等の制定に向けた準備を進めている。

問 事務処理における事故等を防止すると共に、適正な業務執行を確保するため、内部統制システムを導入すべきではないか。

答 町長 現在あるマニュアルやチェックリストなどを用いるとともに、顧問弁護士の法的チェック、管理

職のコンプライアンス指導も含めながら、組織全体でリスク管理体制を構築し、住民福祉の増進を図っていく。



△ 航空レーザ測量は、昨年度五葉地区から始まり町内5地区での展開が計画されている。

問 食産業の地域内循環は

答 耕畜連携と販売拡大

問 地域内好循環による食産業の推進をどう進めるのか。

答 町長
小規模経営で少量多品目の農産物を地域産業として推進するためには、食産業に関わる事業者が情報を共有し、地域が一体となって耕畜連携による地域内循環を図りながら、農畜産物販売に取り組み必要がある。その一貫として畜産堆肥を施用

した子実トウモロコシの実証栽培や飼料用米の生産拡大に取り組んでいる。また、農業経営体によつてネットによる農産物の販売取引が増加傾向にある。商工会等関係機関と連携を図り、経営体支援と販売拡大にも取り組む。

問 チキンクラスター事業により種山地区に鶏舎や堆肥工場が整備される。生産される鶏糞堆肥をど

答 町長
う普及利用する考えか。今回整備される堆肥施設では、農家が使用しやすいペレット状で製造し、年間約3000tの販売を計画している。大半は肥料会社に納入する予定であるが、今後、目別肥培管理マニュアルの作成も計画していることから、町内耕種農家の利用促進につながるもの

と考える。



あべ ゆういち
阿部 祐一 議員

実りの秋にも
米価の下落…
気が重いなあ。

議員のつぶやき

町の考えを問う

問 どう図る 住民の利便性

答 小さな拠点づくりに期待

問 住民の利便性の向上を図るため、送迎による買物支援、移動販売車による巡回などの対策を併せて進める必要があると思うがどうか。

答 町長
高齢化が進む本町において、将来的には、買い物支援や移動販売など身近な場所で買い物ができる環境づくりの必要性があると認識している。各地区における小さな拠点づくりなどの場において、その地域内で食料品や日用品などの買い物物が完結できる取り組みを期待し、福祉関係機関と連携を図りながら買い物弱



△ 建設中の鶏糞処理施設。

者支援に取り組みたい。
問 遠野市、釜石市、奥州市等も生活圏内となっている。これまで以上の連携が必要と思うがどうか。

答 町長
本町のような小規模自治体は、気仙管内だけでなく隣接市との連携はますます必要と捉えている。今後も、より高い事業効果を期待し、気仙管内に限らず遠野市や釜石市などの隣接市と積極的に広域連携を図りながら産業や観光振興における交流人口の拡大に取り組んでいきたい。

議員任期折り返し／各常任委員会等新構成

新たな意気込みで 課題に向き合う

住田町議会議員の任期も残すところあと2年間となりました。
10月1日に開かれた第17回臨時議会において、3つの常任委員会などが
新しい人事でスタートすることになりました。



総務教民常任委員会

委員長	高橋 靖	委員	菅野 浩正
副委員長	荻原 勝	委員	菊池 孝
		委員	村上 薫
		委員	佐々木信一



産業経済常任委員会

委員長	阿部 祐一	委員	林崎 幸正
副委員長	水野 正勝	委員	佐々木春一
		委員	佐々木初雄
		オブザーバー	瀧本 正徳

広報編集常任委員会

委員長	佐々木信一	委員	菅野 浩正
副委員長	水野 正勝	委員	阿部 祐一
		委員	佐々木春一
		委員	荻原 勝

議会運営委員会

委員長	佐々木春一	委員	菅野 浩正
副委員長	佐々木信一	委員	高橋 靖
		委員	阿部 祐一

町政調査会

会長	菊池 孝	理事	佐々木初雄	監事	荻原 勝
副会長	佐々木春一	理事	林崎 幸正	監事	水野 正勝

町政調査会では、7月8日に議員研修の一環として、国の指定史跡として答申された「栗木鉄山跡」を産業文化遺産の今後の活用に向けて視察。また、8月10日には、本町における公共施設整備と産業・観光振興の参考とするため、陸前高田市の「新市役所庁舎」のほか、にぎわいの場として整備されている農業テーマパーク「ワタミオーガニックランド」、果物の収穫体験等を楽しめる「だいわフルーツパーク気仙」の視察研修を実施しました。

国指定史跡へ『栗木鉄山跡』



△ 国指定史跡とするよう答申された栗木鉄山跡(第一高炉跡)。



△ 明治19年から大正9年まで世田米子飼沢地内で稼働していた製鉄所。



△ 今年4月から営業。手ぶらで楽しめるパーベキュー、農業ハウスや畑での野菜の収穫体験などを展開できる体験型の農業テーマパーク。

『だいわフルーツパーク気仙』



△ 今年8月から本格オープン。ブルーベリー園での摘み取りなどが楽しめる。約20品種600本、年度内に約1400本を栽培する。



△ 新庁舎は鉄筋コンクリート造(免震)7階建て。



△ ICT機器が整備された市議会議場。

『陸前高田市役所 新庁舎』

追跡レポート⑦③ 一般質問その後 どうなりました

あの提言

農畜産物の販売 物産館建設は

議員が行う質問や提言が、町政にどう反映されているか。これまでの質問の中から一部を取り上げ、その後どうなったか追跡してみました。

質 問

住田の魅力や情報 産物の拠点づくりを

住田町の産物の流通・販売対策や観光連携の拠点づくりとして、物産館の建設が必要と考えるがどうか。

答 弁

持続可能な取り組みへ しっかり内容を協議

住田町観光協会が主体となり関係事業者と町で協議を重ねている。アドバイザーの紹介や情報提供をするなどソフト面において支援をしながら一緒に進めていく。

その後

待望の地元特産品 発信拠点がオープン



△ 豚精肉などが好評を得ている「イーガストすみた」



現場の声

イーガストすみた
きんのひろし
店長 金野 博さん

住田の特産品や観光情報を一度に共有できる施設を目指しています。まだ紹介できていない特産品や食材もありますので、今後少しずつ事業展開をしていければと考えております。皆様からの情報提供もお待ちしております。

すみた想い人⑦

町民の皆さんに登場していただく企画になります。町や議会に対しての意見、活動を通して「まちづくり」に對しての想いを紹介していきます。



△ グラウンドゴルフ愛好者の皆さんと。

今回は、住田町体育協会と住田町スポーツ推進委員協議会の会長をされている佐々木豊秋さんです。住田町のスポーツ振興活動に多大なご尽力をいただいております。東京五輪の聖火ランナーとしてもご活躍されました。

笑顔でスポーツ 健康維持



△ 住田町体育協会会長 佐々木豊秋さん

- Q** 主に活動していることは。
- A** スポーツ活動をすることで、心と体の健康維持やいつでも、どこでも、だれでも、気軽に体験できるようにしたいと思いつつ、スポーツ教室や高齢者教室での普及活動等を行っています。
- Q** 各種目別協会や地区別体育協会も有りますので、スポーツの相談は体育協会、スポーツ推進委員にお声かけ下さい。
- A** 活動する中で大切にしていることは、既存のスポーツだけではなくクラブ

議会を傍聴しよう！

町議会は誰でも傍聴できます。次の12月議会の予定は下表のとおり。

生活改善センター議会棟の入口から案内に従って傍聴席へお入りください。

令和3年9月議会の傍聴者は16人でした。



12月議会は

日	月	火	水	木	金	土
			12/1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

住田テレビ放映もどうぞ



本会議や一般質問の様子は、住田テレビの「議会放送」でもご覧いただけます。

放映時間は、午後6時からです。

- Q** 活動のやりがいは何ですか。
- A** 参加者が生活に潤いをもたたり、スポーツが楽しみになったという話を聞くと良かったなと思います。昔と比べてスポーツに対する偏見も少なくなり、自分の



△ 東京2020聖火リレーの走者を務める佐々木さん。(写真左)

- Q** 町や議会に望むことは。
- A** 健康維持のためにスポーツ活動を行う人が増えていきます。健康寿命を少しでも伸ばすためにもぜひ取り組んでみましょう。

- Q** 新型コロナウイルスの出来るだけ早い収束を願います。その対策と予測できない自然災害に備えた対応を宜しく願います。



パート
7

わたしの未来

住田町の子どもたちが 将来の夢を語る

コーナーです。
自薦・他薦も大歓迎。申し
込みをお待ちしています。

野球系ゲームを開発

ぼくが将来つきたい職業は、**ゲームクリ
エーター**です。理由は、今やっている戦闘
系のゲームが面白いので、作ってみたいなど
思うからです。いつか、野球系の新しいゲー
ムを開発して、たくさんの人に楽しんでもら
えればいいなと思っています。



世田米小学校6年
おおわだ りゅうせい
大和田 龍聖
(世田米字山谷)

スポーツに興味を

私の夢は、**スポーツナビゲーター**になる
ことです。理由は、スポーツナビゲーターの
ひみつという本を読んで興味を持ち、楽しそ
うだなと思ったからです。話し方などを勉強
してスポーツをしていない人たちに頼られる
スポーツナビゲーターになりたいです。



有住小学校6年
ささき ゆあ
佐々木 友愛
(下有住字高瀬)

編集後記

広報編集常任委員会
委員長 佐々木信一議員

広報編集委員会も新体制でスタートしました。
委員の協力で、読みやすい、親しまれる「議会だ
より」編集に努めます。

今月号は、町長改選、9月定例会は決算議会で
盛りだくさんとなり、4ページ増やしました。
議会だよりを通じて、町民と議会を結ぶパイプ
役を果たして参ります。

表紙の写真



世田米保育園



秋を迎え、世田米保育園では恒例の運動会が開催さ
れました。コロナによる制限はあるものの、子どもた
ちは元気いっぱい走り、踊ったりと練習の成果
を存分に発揮していました。その中でも、りんご組
(3歳児クラス)の子どもたちはたくさんのお客さん
を前にしても堂々たるお遊戯を披露。思わず口ずさむ
懐かしの曲に合わせて可愛く踊る姿に、会場からは、
拍手と笑顔があふれていました。

広報編集常任委員会

発行責任者	議 長	瀧 本 正 徳
	委員 長	佐々木 信 一
	副委員 長	水 野 正 一
	委 員	菅 野 浩 正 阿 部 祐 一 佐々木 春 一 荻 原 勝

